

The background is a vibrant watercolor composition. It features large, irregular washes of green, blue, purple, orange, and red. Overlaid on these are numerous circular and oval shapes in various colors, some with patterns like polka dots or abstract designs. The overall effect is a soft, artistic, and multi-colored backdrop.

一般財団法人

財団 せせらぎ

財団案内

理事長メッセージ

いま、私たちは「時代の大きな転換期」に向きあっています。

私たちは現在、大震災や原発事故、世界的な経済の混乱、格差と不均衡、医療や福祉の壁、教育や文化・社会の閉塞感など、実に多くの難しい問題に直面しています。それらの課題を解決し、世の中を少しでも明るい方向に前進させてゆくためには、そのどれ一つをとっても、これまでにない全く新しい発想や取組が求められているように思われます。

私たちの財団は、小川の「せせらぎ」のように誠にささやかな規模ですが、社会の各分野において、課題に挑戦し、困難な状況を改革、改善しようと努力されているさまざまな「先進的な取組」を発掘し、ご支援申し上げようと考え、設立いたしました。

私たちの財団については、以下の財団案内をご参照ください。

理事長 村上 愛三

財団概要

| | |
|--------|---|
| 名称 | 一般財団法人 財団せせらぎ |
| 設立 | 2013年12月25日 |
| 法人格 | 一般財団法人 |
| 目的 | この法人は、学術・教育、社会福祉、健康・医療、文化・芸術などの各分野において、先進的な取組を進めようとしている個人や団体を発掘し、助成することによって、社会に寄与、貢献することを目的とする。 |
| WEBサイト | https://www.seseragi-foundation.jp/ |

事業内容

当財団は、以下の3事業から構成されております。

1.調査事業

当財団法人の目的に合致するさまざまな個人、団体を発掘するための調査事業 他

2.支援、助成事業

対象者(個人または団体)に対する支援、助成事業 他

3.情報提供事業

ホームページの運用 他

当財団の掲げる3事業

INVESTIGATION

調査事業

SUPPORT

支援・助成
事業

PROVIDING
INFORMATION

情報提供
事業

活動報告

ダウン症候群のあるひとについての最新の かつ正しい情報を掲載した冊子の作製

ヨコハマプロジェクト

ヨコハマプロジェクトは、多様性を認め合い、誰もが力を発揮できる社会を目指して活動している団体です。この冊子は、出産前後の早い段階で、医療機関などを通じ、ダウン症のある赤ちゃんを育てていくことに関する情報を入手できる仕組みを作ることを目的に作成いたしました。発行から約1年で2300部以上が配布され、現在も、赤ちゃんのご両親や医療機関から問い合わせが続いています。ご助成いただき有難うございました。



フランスにおけるアルジェリアの記憶 — 1990年代以降における「承認」と「統合」の政治 —

大嶋えり子

1990年代以降、フランス政府はアルジェリアの植民地支配（1830年～1962年）や独立戦争（1954年～1962年）の記憶を記念碑や博物館、法律の中で多く取り上げるようになった。アルジェリアの解放以降、アルジェリアに関して、引揚者に対する補助金制度などを除いて、長い沈黙が続けたため、1990年代以降のフランス政府の行動は大きな態度の変化を表しているといえるだろう。この変化に本研究課題は注目している。本研究課題の成果の一部として「フランスにおけるアルジェリアに関わる『記憶関連法』—記憶と国民的結合を巡って—」という学術論文を日本国際政治学会が発行している『国際政治』を投稿し、掲載にいたった。



インターネット図書館「青空文庫」の 次世代運用管理サービスの設計・構築

香月啓佑（本の未来基金）

本事業では青空文庫のボランティアが使用する入力・校正管理サーバの移転、そして青空文庫の未来を考えるハッカソンを実施した。入力・構成管理サーバがクラウド環境に移転したことでボランティア作業を支えるシステムの保守がより容易となり、パブリックドメイン作品を未来につなぐ環境を整備することができた。ハッカソンでは東京と福岡で同時開催し、青空文庫への技術的なアイデアが実装され、青空文庫を支える技術ボランティアの輪をさらに広げることができた。



想像力のある社会を目指して。 アートを通し、自己表現と他者を認め合う場を日常に作る。

三木麻郁（Porque ART主宰・美術作家）

現代アートが社会にとって「難しい」「高価」などと、敷居の高いイメージを持たれていることを課題に感じ、自身のアトリエを開放する形で子ども向けのアートクラスをオープンした。アトリエにある端材や使い切れなかった画材、生活廃材を清潔にストックし子どもたちに提供している。こうしたアートに親しむことは、日常的なコミュニケーション能力、つまり自己を表し他者への共感や理解を促すための「想像力」を深めることでもある。精力的に活動する若手アーティストを招待して、市民に向けたワークショップを企画するなど、現代アートと社会を繋ぐ役割としても活動する。

